

(社)日本雪氷学会東北支部

ニュースレター No.49

2010年度東北支部大会の開催案内

2010年度(社)日本雪氷学会東北支部大会(理事会、総会、研究発表会)を、宮城大学食産業学部にて下記の予定で開催いたします。皆様のご参加ならびに研究発表をよろしくお願ひ申し上げます。なお、大会プログラムの詳細については、決まり次第お知らせします。

**開催日時**：2010年4月16日(金)、17日(土)

**開催場所**：宮城大学食産業学部多目的ホール(総会、研究発表会)

〒982-0215 仙台市太白区旗立2-2-1 現地実行責任者：原田鉦一郎

(<http://www.myu.ac.jp/~shoku-hp/>)

**参加費**：1,000円(講演資料代を含む)

**日程**：4月16日(金) 9:15~10:45 理事会(大会議室)

11:00~12:15 総会、授賞式

13:30~14:50 特別講演会

15:00~17:15 研究発表会

18:00~20:00 情報交換会(場所未定)

4月17日(土) 9:15~12:30 研究発表会

**出欠確認**：別紙様式に記入の上、FAX、郵便、電子メールにてご返信下さい。

総会を欠席される場合は、必ず別紙の委任状をFAX、郵便、電子メール(スキャンしたもの)にて提出してください。

**研究発表の申込および講演要旨の提出**：

- ・ 提出期限：4月2日(金) 必着
- ・ 提出先：宮城大学 原田鉦一郎
- ・ 研究発表の申し込みは別紙様式にてFAX、郵便または電子メールにて提出してください。
- ・ 講演要旨(A4版・1~2ページ)は研究発表当日配布されます。郵便または電子メールにて提出してください。原稿を郵送する際は、封書に【原稿在中】と朱書きをして下さい。電子メールによるpdfファイルを歓迎します。

**研究発表申込・連絡先**：〒982-0215 仙台市太白区旗立2-2-1

宮城大学食産業学部 環境システム学科 原田鉦一郎

電話&FAX：022-245-1434 E-mail：haradak@myu.ac.jp

**本原稿の提出**：

- ・ 提出期限 5月31日(月)
- ・ 本原稿は「東北の雪と生活」に掲載されます。A4版 camera ready、6ページ以内で作成してください。投稿原稿のフォーマットは別紙を、投稿規程は支部 web サイトをご参照ください([http://www.seppy.org/~tohoku/journal\\_kiyaku.htm](http://www.seppy.org/~tohoku/journal_kiyaku.htm))。原稿の種類(論文、報告、解説、資料、その他)を必ず明記してください。封書には【原稿在中】と朱書き願います。講演要旨と同様に、電子メールによるpdfファイルも受け付けます。
- ・ 誌上発表のみも受け付けます。本原稿を投稿する際には、誌上発表のみである旨を明記して下さい。

本原稿の提出先：〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地

福島大学共生システム理工学群 環境システムマネジメント専攻 渡邊 明

電話&FAX:024-548-8203

E-mail: may@sss.fukushima-u.ac.jp

情報交換会：会場 未定

会費 3,000円(予定)

その他：宿泊などは各自でご予約ください

### 案内地図



交通案内：宮城交通：日本平線 宮城大学食産業学部前下車

長町駅前 3番乗り場から「日本平」・「仙台南ニュータウン」行き：約25分

仙台駅西口 7番乗り場から「日本平」・「仙台南ニュータウン」行き：約45分

# 「東北の雪と生活」原稿執筆要項（14p 明朝）

## Tohoku Journal of Snow and Life

東北太郎（所属）（12p 明朝）

Please write the English title here.

Tohoku Tarou (10.5pTimesNewRoman)

### 1. ページ

原稿の長さは原則として、6 ページ以内とします。

### 2. 原稿

原稿はA4 判の白紙を使用し、ワープロまたはタイプライターを用いてお書きください。上端マージン 25 mm, 下端マージン 25 mm, 左端マージン 25mm, 右端マージン 20 mm, 字数は 45 字×45 行, ページの一段組とします。

ただし、この字数で印字できない場合は、文字数や行数を調整してマージンに、はみ出さない様にしてください。原稿はそのままオフセットし、A4 判の大きさに白黒印刷します。

### 3. 書き出し

第 1 ページは題目を第 1 行から書きだし、1 行あけて勤務先、著者名を中央に揃えて書き、続けて英文題目、英文氏名を書きます。1 行空けて本文を書き出してください。第 2 ページからは第 1 行目から書いてください。

論文題目は明朝 14pt, 名前と所属は明朝 12pt, それ以外は 10. 5pt のフォントを用い、題目、著者、節題はボールドで強調して下さい。また、ページ番号は印刷しないでください。この案内は執筆要項の様式に従って書いてあります。

### 4. 図・表・写真

図は鮮明なものにしてください。図表を貼り付ける場合ははがれないようにしっかりと糊付け（セロテープは不可）してください。図説等もきちんと挿入してください。

### 5. 締切期日

各年度の原稿提出締切は事務局より連絡いたします。遅れた場合は印刷しません。

（平成 22 年度の提出期限は 5 月 31 日（月）です）

## 出席確認 FAX 送信票

連絡先：〒982-0215 仙台市太白区旗立 2-2-1  
宮城大学食産業学部 環境システム学科 原田 鉦一郎  
電話&FAX: 022-245-1434  
E-mail: haradak@myu.ac.jp

ご氏名： \_\_\_\_\_

所属・職名 \_\_\_\_\_

連絡先： 〒 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

- ◆ 4月16日に開催される上記大会の総会に  
出席 \_\_\_\_\_ 欠席 \_\_\_\_\_ (どちらかに○をつけてください)  
(欠席の場合は委任状をお送り下さい。)

- ◆ 4月16日に開催される上記大会の情報交換会(懇親会)に  
出席 \_\_\_\_\_ 欠席 \_\_\_\_\_ (どちらかに○をつけてください)  
(複数名の場合は人数： \_\_\_\_\_ 人)

- ◆ 4月16日～17日に開催される日本雪氷学会東北支部大会の研究発表会で  
発表する \_\_\_\_\_ 発表しない \_\_\_\_\_ (どちらかに○をつけてください)

発表課題： \_\_\_\_\_

発表者： \_\_\_\_\_

所属： \_\_\_\_\_

----- 切り取り線 -----

### 委任状

社団法人 日本雪氷学会東北支部  
支部長 力石 國男 様

2010年度(社)日本雪氷学会東北支部総会において審議される案件について  
\_\_\_\_\_ に委任致します。

2010年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印

## 東北支部講演会の開催報告

雪氷学会東北支部主催の講演会が弘前大学理工学部において開催され、ローカルからグローバルまでの雪氷圏の変動、災害、対策に関する研究についての発表が行われた。講演会には、支部会員や学生を中心におよそ 50 名の参加者があった。

### 記

#### 「近年の雪氷圏の変動と災害およびその対策」

日時：2010年2月22日（月）13:00－15:50

会場：弘前大学理工学部1号館2階2番講義室

主催：(社)日本雪氷学会東北支部

後援：弘前大学大学院理工学研究科

#### プログラム：

- 13:00－13:05 開会の辞  
雪氷学会東北支部長 力石 國男（弘前大学大学院理工学研究科）
- 13:05－13:50 最近の雪氷圏の急激な衰退－北半球の氷河や海氷は消え去るか？－  
力石 國男（弘前大学大学院理工学研究科）
- 13:50－14:25 ヒマラヤ氷河の変動－氷河湖決壊洪水災害の実態とその対策に向けての取り組み－  
梅村 順（日本大学工学部）
- 14:25－14:40 休憩
- 14:40－15:15 近年の雪氷災害－その要因と被害軽減に向けた取り組み－  
小杉 健二（防災科研 雪氷防災研究センター新庄支所）
- 15:15－15:40 太陽光集熱パネルを用いた融雪－自然エネルギーを利用した雪対策－  
石田 祐宣（弘前大学大学院理工学研究科）
- 15:40－15:50 閉会の辞  
雪氷学会東北支部副支部長 佐藤 威（防災科研 雪氷防災研究センター新庄支所）

開会の辞では、力石東北支部長より雪氷圏研究と講演会の趣旨説明があった。研究発表では、力石支部長が「最近の雪氷圏の急激な衰退－北半球の氷河や海氷は消え去るか？－」と題して講演され、近年の雪氷圏の衰退、特に氷河や海氷の後退は、雪面や氷面の汚れが原因であることを解説した。日本大学の梅村会員は、「ヒマラヤ氷河の変動－氷河湖決壊洪水災害の実態とその対策に向けての取り組み－」と題して講演され、氷河湖決壊による水災害について、自身の調査対象であるヒマラヤ地域の研究を中心に、雪氷学と土木工学の協力による研究と対策の必要性について解説した。防災科研雪氷防災センター新庄支所の小杉会員は、「近年の雪氷災害－その要因と被害軽減に向けた取り組み－」と題して、モデルにより雪氷災害を予測することと、道路状況、吹雪、雪崩、屋根雪事故に関して解説した。弘前大学石田会員は、「太陽光集熱パネルを用いた融雪－自然エネルギーを利用した雪対策－」と題して、自然エネルギーである太陽光からソーラーパネルを利用して集熱するシステムの実験結果と有効性について解説した。

赤田尚史（環境科学技術研究所）

# 積雪観測講習会の開催報告

## 1. はじめに

本学会東北支部及び(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所主催の積雪観測講習会が下記の要領で弘前大学において開催された。受講者は、山岳パトロール隊員4人、コンサルタント・気象関係2人、博物館勤務1人、大学教員3人、学生12人の計22人であった。県別では、青森県内から18人と秋田県から4人の参加であった。

記

日時：2010年2月23日(火)

場所：弘前大学理工学部

主催：(社)日本雪氷学会東北支部

(独)防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター新庄支所

共催：日本雪工学会北東北支部

後援：弘前大学大学院理工学研究科

## 2. プログラム

9:00 受付開始

9:10～9:15 開会の挨拶

力石國男 ((社)日本雪氷学会東北支部 支部長)

9:15～10:00 基本学習

10:00～11:00 野外実習 (積雪断面観察)

11:00～12:00 野外実習 (積雪データの測定)

12:00～13:00 昼食

13:00～14:25 室内実習 (積雪データの整理)

14:25～14:30 閉会の挨拶

佐藤 威 ((社)日本雪氷学会東北支部 副支部長)

## 3. 講習内容

基本学習では阿部修講師(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)より、積雪の性質と観測の目的について講義があった(図1)。その後、野外実習として近くの運動場で3つの班毎に積雪断面の観察および受講者自らによる雪温などの測定が行われた(図2)。当日まで数日間暖かい日が続き、深さ約70cmの積雪はほぼ全層ざらめ雪であったが中ほどの深さには氷板があった。表面を見ただけでは分からない積雪内部の構造を、鉛直断面を観察することにより把握できることを受講者に実感してい



図1 基本学習の様子



図2 野外実習の様子

ただけたと思う。観測項目は、雪温、雪質、密度、積雪相当水量、および硬度であった。受講者から粒度の見分け方が難しいとの感想があり、測定方法や説明に今後の工夫が必要と感じた。昼食後は測定したデータを計算・整理し、疑問点を講師に又は受講者同士で質問しつつグラフを作成した(図3)。実習の講師は阿部修(防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)、佐藤威(同)、小杉健二(同)及び本谷研(秋田大学教育文化学部)が務めた。



図3 室内実習の様子

#### 4. おわりに

本講習会は、大学を会場としたためと思われるが、多くの学生が参加した。今後、雪氷に対する興味を一層深めてくれることを願っている。業務として雪に携わる方々には、講習会で得た知識、技術及び経験を実務に活かしていただければ幸いと思う。

小杉健二(防災科学技術研究所)

---

発行：(社)日本雪氷学会東北支部事務局

発行責任者：総務幹事・赤田尚史

〒039-3212 青森県六ヶ所村尾駸字家ノ前 1-7

財団法人環境科学技術研究所 環境動態研究部

電話：0175-71-1359 Fax：0175-71-1492 email：nao@ies.or.jp